

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

我が国の情報化の進展に鑑み、その利便性に留まることなく、社会の変化にともなう必要とされる情報活用能力やモラルに言及し、情報化社会における道徳心の涵養を図っている。また、公共の精神を尊ぶ姿勢および社会性の向上に資するため、地方自治の単元等における「公民にチャレンジ」では、社会参画を見据えた地域社会への関わりについて、各地の資料を基に考えさせる場を豊富にそろえる等工夫がみられる。一方、国際関係分野においては、我が国との関係において、いまだ解決を見ない国際問題としての貧困や、各地の紛争・戦争等を取り上げながら、グローバルな視点からとらえさせようとする工夫がみられる。とりわけ、貧困問題はハンガーマップや水問題を取り上げるなど最新事情から考察を深めさせようとし、平和問題では戦争の形が変わりつつある状況を踏まえ、地域紛争およびテロリズムの台頭を、本文にて正面から取り上げている。特にレスナ問題等においては、宗教と関連させながら、生徒が理解しやすいよう、平易な文章で表現するなど記述に工夫がみられる。<④⑩⑪>

2. 教育基本法に基づく観点

伝統と文化を尊重する態度の育成に資するため、「公民にチャレンジ」で伝統文化継承について、少子高齢化や過疎化の進む中、その困難さを踏まえつつも、それに立ち向かうとする全国各地の実践が、社会参画の視点を踏まえ取り上げられている。一方、情報あふれる現代社会の特色を踏まえ、特に政治的分野において、模擬選挙を通じた考察や広告を教材とした消費者主権学習、模擬裁判や温室効果ガス削減シミュレーション・新聞の比較等、良き市民として、我が国のあるべき姿、真理を追究しようとする態度を育成しようとする工夫がみられる。<①③⑥>

3. 学習指導要領に基づく観点

各章のはじめに、「やってみよう」を設け、社会の諸問題や個人と社会の関わりとなりうる事象、例えばスーパーマーケットの構造や市長の模擬選挙やコンビニエンスストア経営・バスター戦争等を取り上げ、関心意欲の向上とともに、主体的かつ体験的な学習の充実を工夫がみられる。章末には、それまでの学習を踏まえて、関連した課題について「効率・公正」等を用いて学習する「やってみよう」が設けられている。また、「公民にチャレンジ」では、諸資料に基づいた主体的学習を通して習得・探究・活用をしっかりと確保し、その能力の向上に資する工夫がなされている。とりわけ、政治的分野においては広島県福山市を例とした地域の課題解決のための取り組み、経済的分野においては広告を教材とした消費者主権や需要供給曲線であらわした市場経済の仕組み、少子高齢化を踏まえた財政・社会保障の在り方の取扱いが挙げられる。いずれも社会参画、社会の諸問題解決への視点も含んでいる。また、「公民にアクセス」というコラムでは、現代社会の課題について取り上げ、多角的・多面的に学びを深めることができるよう工夫している。<③⑧⑩⑫>

4. 外的要素に関する観点

All版での紙面構成であることから、写真資料や統計資料の充実が図られている。文字も読みやすさを追求したゴシック体となっている。また、色彩・デザインともに、ユニバーサルデザインの考え方を反映しており、落ち着いた配色やグラフの示し方等において、誰にでも活用しやすくなるよう細かな配慮がなされている。すべての単元において、本文および資料の提示が一定でありバランスの取れた形となっている。<①②④>

5. 構成・配列に関する観点

各章の導入部分において、今後の学習内容を大観するような写真資料を提示するなどして関心・意欲の向上を図っている。また、各資料には「分野関連マーク」が併記されており、地理的分野および歴史的分野での学習との関連を意識できるよう配慮されている。各単元の終結部では、知識の定着を図るだけの十分な問題演習が充実しており、論述を通じた言語活動にも取り組めるよう構成されている。<①②③>

6. 資料その他に関する観点

全般的により最新の時事をふまえた資料を使用することで、生活との関わりを十分に図るよう工夫されている。特に、各ページの導入資料は、写真や資料を通して興味・関心を高めることができるようになっている。また、資料そのものも本文との関連が明確であり、思考を促すことができるようになっている。「公民にチャレンジ」では、作業的な学習が促進されるようスモールステップで構成され、無理なく取り組めるよう配慮されている。<①②③>

公民

教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果

教出

1. 大阪市教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

巻頭の「ともに生きる社会を旨として」のページで、ユニバーサルデザインによるまちづくりを紹介し、また、点字を掲載することで、視覚的・触覚的に体感でき、特別支援教育に配慮されている。東日本大震災の人道支援や「ステナイ生活」を紹介し、日本と世界のさまざまな結びつきを取り上げ、グローバル化がすすむ国際社会のなかで、主体的に行動する能力の育成に配慮されている。章末ごとに学習のまとめと表現のページを設け、学習内容を整理するとともに、作業的な学習で主体的に学習に取り組むことで、学力の向上に努めている。また、授業ごとに、学習課題が設定されており、授業のまとめとして授業内容を深めることができる「ふりかえる」や、「言葉で伝え合おう」には「さらにステップアップ」が設けられており、基本的な学力の定着を図りながら、表現する能力を養うことができるよう配慮されている。各章のはじめのページには中学生が活動する場面の写真が掲載されており、社会参画への興味・関心を持ち、自己の判断と責任を持ち、社会の発展に寄与する能力を育成するように配慮されている。「公民の窓」は、学習から興味を広げていくことができるコラムで、興味・関心を高めることができる。<②⑥⑧⑩>

2. 教育基本法に基づく観点

「読んで深く考えよう」のページでは、身近な社会や現代社会の問題に触れ、学習内容をより一層を深め、幅広い知識と教養を身に付けることができる。「つなげたい、日本の伝統や文化」では、文化の継承について、法隆寺五重塔の耐震性を担っている「心柱」がスカイツリーに受け継がれていることなどを例に挙げ、日本の伝統文化が我々の身近なところでも継承されていることを理解し、伝統や文化を尊重し、郷土を愛する心が育つような学習内容となっている。また、「ともに生きる社会を旨とする人々」では、識字運動やハンセン病問題を取り上げ、人権についてさらに深く考えさせるようにしている。阪神・淡路大震災や東日本大震災、地球温暖化など世界や日本の環境問題を取り上げ、未来への私の約束を作成することで、持続可能な社会の実現に向けて、よりよい社会の形成に参画する資質や能力が育成できるよう配慮されている。<①③④⑤>

3. 学習指導要領に基づく観点

公民にアプローチの新聞を活用しようのページで、新聞の紙面構成や読み取り方・新聞の活用を学習することで、平素から新聞に親しみ適切に活用する方法を学ぶことができる。「言葉で伝え合おう」でディベートやプレゼンテーション・ポスターセッションなど表現活動の方法が紹介されており、これらの活動を通して資料やインターネットなどを活用し、主体的に意見をまとめ発表する方法を提示している。男女平等や部落差別・在日外国人・アイヌ民族など、現代の人権問題を幅広く学習できるように配慮されている。また、識字学級の取り組みやハンセン病問題に関する中学校の実践が具体的な事例として紹介されている。国際社会における人権問題への取り組みとして、国際的な人権擁護組織のアムネスティ・インターナショナルの活動を取り上げ、人権の問題は世界的に取り組む課題であることを学習することができる。「読み解こう」で、資料を読み取ったり、自着眼点を示している。さらに、巻頭の「日本と世界の歩み」の年表で歴史的事象と関連付けて学習できるように配慮されている。<②⑥⑧⑩>

4. 外的要素に関する観点

紙面がカラーユニバーサルデザインや文字（UDフォント）などに配慮されており、巻頭の「ともに生きる社会を旨として」のページでは実際に点字にふれて学習できるよう配慮されている。また、行間がゆったりとしており、本文と注釈の字体が異なっているので視覚的に区別しやすくなっている。図やグラフが大きく掲載され、写真も鮮明であり、グラフに示されている数値なども見やすくなっている。<②⑩>

5. 構成・配列に関する観点

本文や資料・コラムの配置が一定で、基本的内容を身につけて主体的な学習を促すよう構成されている。大日本帝国憲法の資料に日本国憲法との関連の条文番号が記載されており、学習内容を深め自主学習を促している。各章の「はじめに」では、学習の導入資料として歴史的分野との関わりや身近な事例を挙げ、「卒のねらい」で示されている課題について主体的に取り組むことができるように配慮されている。また、「学習のまとめと表現」のページに、資料庫というコーナーが設けてあり、学習の参考になる書籍や文献を紹介しており、自主学習に役立てることができる。<②⑩>

6. 資料その他に関する観点

学習内容を理解し定着を図るため、学習課題や現代社会の社会的事象を考察できるように、わかりやすく図示されたグラフや資料が掲載されている。人物キャラクターの問いから学習が展開されるように人物キャラクターが配置され、人物キャラクターの問いに即した資料を配置することで、学習内容をより理解しやすくなっている。写真は新しいものが使われており、現代社会を理解するのに役立っている。<①②>

公民

教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果

清水

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

日本と各国との経済におけるグローバル化についてやTPPと日本についてなど国際社会についての様々な記述があり、「もっと知りたい公民」のコーナーで、TPPと日本が取り上げられ、TPP参加によって日本が受ける影響やTPP参加国と日本の貿易など様々な資料から多角的・多面的に考えられるようになっており、グローバル化が進む国際社会で力強く生き抜くことができる能力の育成に配慮されている。さらに、「もっと知りたい公民」では、伝統的な文化とその発展、文化の国際化や多様な日本文化等が写真とともに数多く記載されている。また、「深める公民」では、日本の中小企業についての説明や大阪府池田市にあるインスタントラーメン発明記念館のインスタントラーメンなど生活に身近なものの説明や写真が記載されており、興味関心を抱きやすく、我が国と郷土の伝統と文化を尊重し、大阪を愛し、大阪にふさわしい新しい文化の創造を目指すことができるように配慮されている。各ページごとに新出用語や内容についての注釈があり、理解を深めることができる。また、各編のまとめでも新出用語や重要キーワードのまとめがあり、内容を整理しやすく、学力の向上について配慮されている。<⑥⑦⑧>

2. 教育基本法に基づく観点

世界文化遺産に登録されている白川郷の合掌造り集落や日本の伝統文化や日本の無形文化遺産等の写真がたくさんあり、伝統と文化を尊重し我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し国際社会の平和に寄与する態度を養うことについて配慮されている。東日本大震災後の放射線物質に対する作業、復興、地域活性化等の取り組みが取り上げられ、今後の課題やこれからの未来について紹介されている。また、地球温暖化やオゾン層の破壊など近年、身近に感じられてきた事例を中心に地球の環境について丁寧に記述されているので、生命を尊び自然を大切に環境の保全に寄与する態度を養うことについて配慮されている。<④⑤>

3. 学習指導要領に基づく観点

日本における被差別部落やハンセン病元患者の長いたたかいや銃を手にする少年兵など海外の事例も数多く取り上げ、個人と社会の関わりや個人の尊厳と人権尊重の意義、自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく確認できるよう配慮されている。原爆が投下された広島市の街の写真や第二次世界大戦について記述し、終戦を機に憲法の平和主義のもとで行われていった自衛隊と日本の安全保障、世界平和と日本の戦後の役割について取り上げている。また、マララさんの訴えや即の発展、現代世界と地域紛争についても触れられており、世界平和の実現と人類の福祉の増大のため、自国を愛し、平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させるよう配慮されている。各ページに風船マーク（調査）を設け、自分自身で考えたり、説明したり、話し合ったりする言語活動が設定されている。基礎的・基本的な知識の習得はもちろん、「もっと知りたい公民」や「深める公民」などのコーナーで、基本的事項、事柄を厳選して基本的な内容が確実に身に付くよう指導することや、生徒の主体的な学習を促し、自分の意見をまとめさせたりすることにより、学習に関して興味や関心を広げ、思考力や判断力、表現力を養えるよう配慮されている。<②④⑥⑩>

4. 外的要素に関する観点

文字、文章表記においては本文をページの中心に記述し、解説・図表・写真などの資料がページの上部や左右に配置されている。また、活字としてUDフォントが使用され、資料等は大きく取り上げられ、カラーで掲載することによって、本文の文章が読みやすく、本文と注釈では文字の大きさが異なり、行間も適切である。その上、本文の記載部分と資料等のスペースで背景の色が異なっているため、鮮明で目に入ってくる。<②③>

5. 構成・配列に関する観点

民主政治の発達や戦後の日本の安全保障、年表や巻末の文化遺産など他分野との関連を考えた構成となっている。また、生徒自身が自ら考えられるよう「選挙をめぐる問題」や「裁判員制度について考える」など数多くの事例を取り上げている。各単元のページ左右には、本文の記述を補充する解説や注釈、風船マーク「調査」を付した課題などが整理して配置されており、主体的な学習を促し、課題解決能力を培えるよう配列が構成されている。<①③>

6. 資料その他に関する観点

「もっと知りたい公民」の「刑事裁判と民事裁判」や「知っておきたい労働者の権利」などでは、漫画やイラストを使うことで親しみやすく配慮されている。具体的な事例を掲載し、社会的事象を理解するために役立つよう配慮されている。絵・写真・図表など資料が豊富に掲載されており、生徒の興味関心を高めることが期待できる。また、注釈も多く教科書との関連が的確で、理解しやすいものとなっている。<①②>

公民

教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果

帝国

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

院内学級や児童虐待の現状を広く知らせるオレンジリボンや人権に関する課題の解決に向けた取り組みを紹介し、人権や共生社会を学び、正義を求める力の育成に配慮されている。また、自衛隊による国際支援やNGOの支援やフェアトレードを取りあげ、人間の暮らしから安全保障を考える「人間の安全保障」の考え方が日本の外交方針に盛り込まれていること、また、その重要性を学習し国際社会で力強く生き抜くことができる能力を育成しようとしている。コラム「未来へ向けて」で紹介されている東大阪市で作られている「ゆるまなひ」ナットをとりあげ、中小企業の技術力の高さを知るとともに、大阪で世界最高水準の技術を生み国際競争をしている姿を学習することで、大阪を愛し大阪にふさわしい新しい文化の創造をめざすことに配慮している。「学習の前に」では、イラストや写真を見ながら身近なできごとと結び付けて考えさせている。「学習をふりかえろう」のページでは学習内容を整理するとともに、「学習の前に」を振り返り学習課題を深め文章で表現する力を育成するように配慮されている。<⑥⑦⑧>

2. 教育基本法に基づく観点

地球温暖化とその対策について、先進国や発展途上国などさまざまな立場から、多角的に考察できる。また、「パン屋の経営者になってみよう」でシュミレーション仕立ての連続コラムが設けられており、生徒が制度やしくみを理解したり勤務について身近に考えられるように配慮されている。伝統文化では、輪島塗などの伝統工芸や稲作文化の影響を受けた年中行事を通じて日本の伝統を尊重する心を育て、世界で活躍する日本人を学習することで国際社会の発展に寄与する態度を育てるよう配慮されている。公民的資質を育む基礎となる家族と地域社会のつながりを取り上げ、自他の敬愛と協力を重んずることで現代社会が成り立っていることへの理解を深めることができるよう配慮されている。<②③④⑤>

3. 学習指導要領に基づく観点

「戦争の被害と人権」という単元を設け、平和が生命や人権を守るために欠かせない条件であることを具体的事例に触れながら考察できるように配慮されている。「トライアル公民」では、現代社会が直面するさまざまな問題を疑似体験することで、社会事象に関する関心を高め、多面的・多角的に検討できるように配慮されている。また、基本的な内容の理解を促すために、経済分野ではイラストを用いながら日常の社会生活との関連から理解を深めることに配慮している。「新聞について知ろう」では、新聞の構成を学び、同じ日の新聞を比べることで、社会事象を多面的・多角的にとらえ冷静に判断するメディアリテラシーを身に付けることができる。「よき社会をめざして」では、レポートの作成手順が詳細に示されており、公民的分野で学習した各内容の課題が提示されていて、資料を収集、選択し多面的・多角的に考察すること、思考力・判断力・表現力を養うことに配慮されている。政治、経済、国際社会などの各内容の導入では、「学習の前に」が配され、イラストや写真、地図をもとに「やってみよう」で身近なできごとと結びつけ学習テーマについて考察し、学習内容に応じて章末にふりかえりを行いながら、学習を進めていく工夫がなされている。<④⑤⑥⑦⑧⑨⑩>

4. 外的要素に関する観点

巻末でさまざまな分野で活躍する中学生の写真に掲載し、親しみやすくなっている。本文の重要語句をわかりやすくするために、文字の形や太さに配慮している。授業の導入に利用する写真や図・イラストが大きく掲載されている。見開きのデザインやグラフ・地図などの資料にカラーユニバーサルデザイン、UDフォントの配慮がなされている。また、色数の多いグラフや地図には模様を使用され、色以外での区別ができるように配慮されている。<②③>

5. 構成・配列に関する観点

本文に注釈や図表番号をわかりやすく記載することで、基本的な学習内容が身に付けられるよう配慮されている。見開きの左ページ上段には導入資料、右ページ上段には図版・写真・コラムを掲載し、下部に本文を掲載し、また、資料・側注なども統一したレイアウトで、見やすい構成になっている。本文には「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」が設置され、予習・復習など主体的な学習を促しやすく配列が工夫されている。適宜、ページには、「地理・歴史をふりかえろ」のページが設けられ、例えば、「世界恐慌（歴史）」や「公害（地理・歴史）」等、地理的分野や歴史的分野で学んだ内容が紹介されており、3分野を関連付けた学習ができるよう工夫されている。<①②③>

6. 資料その他に関する観点

本文の内容の理解を助けるために、側注に「解説」が45か所設けられている。クローズアップの「監視カメラめぐって」など、現実の問題を取りあげた課題を考察することで、学習内容を深めることができる資料を掲載している。学習内容を理解し深めるために、YesNoのコーナーを設け双方の意見を確認するなかで、学習内容を理解しやすいようにする資料を掲示している。<②>

公民	[REDACTED]	教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]
日文					
<p>1. 大阪市教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>料理・アニメや柔道などが世界中で受け入れられているように、地球規模での文化の交流が起こっていることをとらえ、グローバル化が進む現代社会において、力強く生き抜くことができる能力の育成に配慮している。結婚から老後までの自身のライフプランを考えさせることで、自己の判断と責任で道を切り拓くことができる能力や、生徒が主体的に学習し課題を解決する能力を育成しようとしている。祭りなどの年中行事や庭園・日本料理・歌舞伎などが昔から受け継がれてきた文化であることを取り上げ、特色ある日本の伝統と文化が、現代社会で生きていることを理解し、我が国や郷土を尊重し愛する心情を育てられるよう配慮されている。社会参画の手掛かりとして、裁判員裁判シミュレーションを例に挙げ、裁判制度を理解させるとともに、真理と正義を求めることができるよう配慮している。授業で取り組むことができる具体的な活動的な学習として「アクティビティ」が設けられ、人口ピラミッドの変化やまきりを考えること等に取り組めるようにしている。各編にナビページ（現代社会、政治、経済など）を設け、編の学習の基礎となる考え方をイラストや、「新聞から読み取る」で学び、これからの学習の興味づけを行うようにしている。<②③⑥⑦⑧></p>					
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>それぞれの地域の気候や風土によって家の作り方、災害の対応のしかた、行事など地域独自の文化がはぐくまれたことや、お正月などの年中行事や脳などの芸術が受け継がれてきたことを通して、我が国の伝統と文化を尊重し郷土を愛するとともに、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与することに配慮している。化石燃料の大量消費による地球温暖化や太陽光などの再生可能エネルギーを取りあげ、資源・エネルギー問題や地球環境問題を通して、自然を大切にし環境の保全に寄与する態度を養うことに配慮している。悪質商法や製造物責任法を通して、消費者が自分の判断で買うか買わないかを決める権利を持っているという消費者主権による消費者保護の観点を踏まえ、個人の価値を尊重し、自主・自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し労働を重んじる態度を養うことができるよう配慮している。また、「明日に向かって私たちの社会参画」では、堺市でのパリアフリーの例をもとに、点字の実物も添えて取りあげ、安全で安心して生活していける社会をめざすことやまちづくりについて考えていくことができるよう工夫がなされている。<②③④⑤></p>					
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>日本がODAなどの経済援助だけでなく、青年海外協力隊や平和維持活動に自衛隊が参加していることなどに着目させ、国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させる工夫を行っている。新聞記事を題材にすることで、統計その他の資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに、情報の読み方と伝え方を学ばせ情報モラルの指導にも配慮している。年金シミュレーションを行わせることで、生徒が日常の社会生活と関連付けながら政治や経済などについての見方や考え方の基礎が養えるだけでなく、制度の仕組みや働きについて理解を深めさせることができるよう配慮されている。「日本の現代史年表」や「現代の世界のようす」では、地理的分野や歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、これらの分野で育成された能力や態度が高まるよう配慮されている。財とサービスの生産や消費、流通を考えさせることで、国民生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活について理解を深めさせるとともに、自ら考えようとする態度を育てることができるよう配慮されている。ページの欄外にそのテーマに基づく小学校や、他分野の関連をわかりやすく示す工夫がなされている。<④⑥⑦⑧⑩></p>					
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>環境などへの影響が少ない植物油インキと再生紙を使用するとともに、光沢をやわらげており、目に優しく、生徒にとって親しみやすい表丁となっている。また、文字の大きさ・行間などが適切で印刷は鮮明である。1授業時間が見開き2ページであり、ページの上部には資料、地図、写真などが鮮明でわかりやすく表示されているとともに、大きさ、色、位置などが適切であり、生徒が見やすいよう配慮されている。<①②③></p>					
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>世界地図を掲載し地理的分野との関連を考えた構成にするとともに、日本の現代史年表と世界の現代史年表から学習活動を振り返り歴史的分野との関連を考えた構成になっている。各地域の地方公共団体の取り組みを多面的、多角的に紹介するとともに、地方自治を自らの問題として捉え、主体的に社会の形成に参画できるよう配慮されている。各単元末の「学習の整理と活用」では、主体的な学習を促し、基本的な学習内容が確実に身に付くよう工夫されている。(①③④)</p>					
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>ページ上部に表示されている資料や統計・地図などは最新のもので、その出典が明記されているだけでなく、資料や統計・写真は大きくて見やすく、教科書との関連が的確で理解しやすく配慮されている。「現代社会ナビ」などのナビページでは、多くの新聞記事を取り上げることで、情報スキルの向上とともに、身近な生活に関連付けて考察することで、社会的事象を理解するために役立つよう配慮されている。<①②></p>					

公民	[REDACTED]	教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]	[REDACTED]
自由社						
1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点						
<p>「私たちと地域社会」の単元において、地域社会とのつながりについて詳しく記述されている。また、商店街の吹き出しに集まる人々や子どもの通学を守るボランティアなどの写真が掲載されており、地域のコミュニティの大切さが伺え、公共の精神を尊ぶことができるよう配慮されている。今では身近になっているハンバーガーを例に挙げ、食を通じた経済についてや環境破壊・地球温暖化などの環境問題、貿易における為替相場など多角的にグローバル化について記載されている。また、地域紛争と多発するテロや世界の宗教分布などについて資料とともに取り上げられており、グローバル化が進む国際社会で力強く生き抜くことができる能力の育成に配慮されている。「ここがポイント」で毎時の学習内容を整理でき、さらに「ミニ知識」や「もっと知りたい」を活用することで、補充的な学習や発展的な学習ができるように工夫されている。また、「学習のまとめと発展」では、学習のまとめで、最重要語句を整理、確認し、また、学習の発展では、ポイントになる項目についても記述できるようにいくつかのテーマが用意されており、課題についてまとめる学習があり、学力の向上についても配慮されている。<④⑥⑧></p>						
2. 教育基本法に基づく観点						
<p>「もっと知りたい」の企業は誰のものかでは、株式会社ものしくみや会社の構成などについて詳しく説明されている。また、働くことをテーマとする単元においては労働者と企業の関係、法律等について述べられており、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことについて配慮されている。東日本大震災を通しての災害派遣、近年世界規模で問題となっている様々な環境問題を通して、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことについて配慮されている。日本の芸術や宗教に関する伝統文化や我が国の領域に関する領土問題等に関する詳細な記述があり、伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛し、他国を尊重する態度を養うことについて配慮されている。<②④⑤></p>						
3. 学習指導要領に基づく観点						
<p>「もっと知りたい」の基本的な人権思想の発達では、欧米諸国にみられる発達の背景や日本における権利の平等に関する問題や新しい権利など、人権に関する記述がまとめられている。また、多発する紛争と国連の現在や日本の安全保障のための努力など戦後の日本が国際社会の中で平和を維持する努力を積み重ねてきたことを自覚できるよう配慮されている。人類の歴史と国家が成立していく過程や国家と農業の関係を世界地図を使用し解説している。公民的分野だけでなく、歴史や地理に関する内容も随所に取り上げられており、地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、分野全体として見通しを持ったまとまりのある学習を展開できるよう配慮されている。「学習のまとめと発展」では、単元の復習を行うとともに、自らが思考・判断・表現できるようにテーマが定められている。見開きページは、本時の授業を通して、生徒に考えさせたいこと、気付かせたいことがすでに「ここがポイント」でまとめられている。「レポートと卒業論文をつくらう」や課題の探求「ディベートをやってみよう」では、自ら調べ、考え、まとめるといったことが目的とされており、対立と合意の観点で議論できるように実際の事例が豊富に取り上げられている。<②④⑥⑧⑩></p>						
4. 外的要素に関する観点						
<p>教科書がコンパクトにまとまっていて、扱いやすく、明るいいで装丁されているので、生徒に親しみやすくできている。本文と「ここがポイント」や注釈などで、文字の大きさが違い行間も適切で読みやすくなっている。教科書の背景を白色にすることで資料・地図・写真などが鮮明に見え、大きく取り上げられているので見やすく、資料・地図・写真などは上部に掲載されているので見やすく配慮されている。<①②③></p>						
5. 構成・配列に関する観点						
<p>序章「現代日本の自画像」やもっと知りたい「わが国の領土に関する問題」では、歴史や地理的な側面についても触れられている。写真や図・絵などの資料も掲載されており、他分野との関連を考えた構成となっている。各章の導入において、基礎的・基本的事項を示し、その学習の積み重ねにより、基本的内容が確実に身に付くよう系統的に学習内容が構成されている。ページ上部に写真・地図・図表などの資料が配置されている。また、ページの左右には本文の記述を補充する用語や注釈が載っており、主体的な学習を促し課題解決能力を培えるよう配列となっている。<①②③></p>						
6. 資料その他に関する観点						
<p>もっと知りたい「年金について考えてみよう」では、年金制度の仕組みや今後の考えられる課題について、図版や統計資料を用いて考察できるように工夫されており、社会的事象を理解するのに役立つよう配慮されている。絵・写真・図などの資料が厳選され、生徒には見やすくなっている。資料・統計などは上部や左右に整理されているため見やすく、教科書との関連が的確で理解しやすいように工夫している。<①②></p>						

1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点

グローバル化の進展を踏まえ、その現状の理解と多方面にわたる国際化への関わりについて、「理解を深めよう」で豊富な事例（グラミン銀行やクールジャパン等）を通して学習できる工夫がなされている。また、本文および「やってみよう」では、国際経済分野における為替相場や伝統文化の視点を加味した観光資源、温暖化防止やリサイクルなどの環境問題にかかわる先進的取り組みなどを取り扱うことで、社会の問題を通して真理と正義を求めようとする態度の育成に努めようとしている。TPPや拉致問題・防災に関する事象など、最新時事が十分に取り上げられており、人権との関わりおよび我が国が果たすべき責務について考察させようとする。また、「考えよう」で、「だれにも迷惑をかけなければ何をしてもいいのか」、「死刑制度」、「1964年と2020年 東京オリンピック・パラリンピック」などのテーマをもとに、自身のこと、社会のことなどを考えさせるテーマを設ける配慮がなされている。各見開きページには、えんぴつマークがあり、学習した内容が理解できているか確認したり、学習内容を深めたりする課題を設定している。<①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺>

2. 教育基本法に基づく観点

伝統文化尊重の観点から、様々な部分で、我が国の伝統文化および他国尊重、国際社会への貢献にかかわる記述がみられる。「なぜ公民を学ぶか」において、自分の立ち位置を確認させることで関心を高めつつ、家族の役割において、郷土愛に触れている。また、日本の伝統文化を様々な分野で整理しながら、豊富な写真資料を充実させる工夫をしている。一方、関心の高まりつつある防災・減災の取り扱いを財政の分野で、環境にかかわる部分については、持続可能な社会づくりの分野で、ともに資料を基に多角的に考察させようとする工夫がみられる。歴史的分野との関連を図りながら、東京オリンピック等、最新の時事も取り扱っている。「やってみよう」では、企業を訪問してみよう（職場体験学習へチャレンジ）で、自分で行動する学習や、理解を深めようで「企業の社会貢献」を扱い、「考えよう」で、人は何のために働くのかといったテーマをもとに勤労について一連の学習が設けられている。<②④⑥>

3. 学習指導要領に基づく観点

「やってみよう」では、社会の諸問題となりうるような事象について取りあげ、体験的な学習を通して、主体的に学ぶことができるよう配慮されている。政治分野では、「新聞の社説の読み比べ」や「模擬裁判」・「パンフレットづくりを通じた観光資源の発掘」など、様々な資料活用工夫がみられる。「理解を深めよう」では、少年法や家事に関するものだけでなく、世界遺産や沖縄基地問題・拉致問題など、より身近な事象から国際社会における最新の時事性の高い事象を取り扱うなどしている。日常生活における個人と社会とのかかわりを意識した構成となっており、本文での理解で得た知識を用いて思考・判断・表現する工夫を行っている。「自分覚を促す工夫をしている。<①③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺>

4. 外的要素に関する観点

A B版での紙面構成であることから、写真資料や統計資料の充実が図られている。すべての単元において、本文および資料の提示のパターンが一定であり、バランスの取れた形となっている。また政治や経済等の各章・各分野ごとに、配色を使い分けることで、現在の学習分野を視覚的に把握することができるよう工夫されている。色彩においては、全体的に落ち着いた色を使用するなど、学習者への配慮がみられる。<①②③>

5. 構成・配列に関する観点

各章のはじめに、「〇〇の入り口」(法の入り口や政治の入り口など)のコーナーを設け、作業学習を通して主体的な学習を通して関心意欲を高めながら、今後の学習との関連を図りつつ大観できるよう構成されている。各ページにおいても、導入部における写真・資料等を充実させながら、本文での学習につなげている工夫を行っている。見開きページには、えんぴつマークを設けており、本時の学習の振り返りをし、章末では、「学習のまとめ」として、重要語句の確認チェック、学んだことを確認する図などの問題、そして、自ら考え答える問題など系統的指導に配慮している。また、本文横の手のマークで、学習内容に関する情報を提示し、課題解決を促す工夫を行っている。<①②③>

6. 資料その他に関する観点

やってみよう「新聞の社説を比べてみよう」など、NIE活動を念頭に置いた新聞記事の活用を充実させることで、各時で扱う社会的な事象についての関心・意欲の向上と理解の促進を図る工夫をしている。引用されている資料は最新のものであり、学習内容を補完し思考を促すことができるような構成に配慮されている。また、議院内閣制や三審制などのように、各種の社会的な仕組みを示す資料については、簡潔かつ構造的に示すなどの工夫がみられる。<①②③>